障がいのある人とその家族が
地域の中で尊厳を保ちながら
普通の暮らしが出来るよう支援する

NEWS

社会福祉法人
京都障害者福祉センター

11月号
No. 229 R4/11/1
編集：支援センター
発行：本部事務局
http://www.kyofc.or.jp

～新型コロナウイルス～第８波に最大限の警戒を～

10/24(月)～10/30(日)の市内の新規感染者数は、2,147 名で、１箇月前の 9/24(月)～10/2(日)の 2,912 名からは減少しているものの、１週間前の 10/17(月)～10/23(日)の 1,674 名と比較して増加しています。

新規感染者数の一週間合計が増加したのは、12 週間ぶりで、全国的にも増加傾向、特に若い世代の新規感染者が多くなっています。

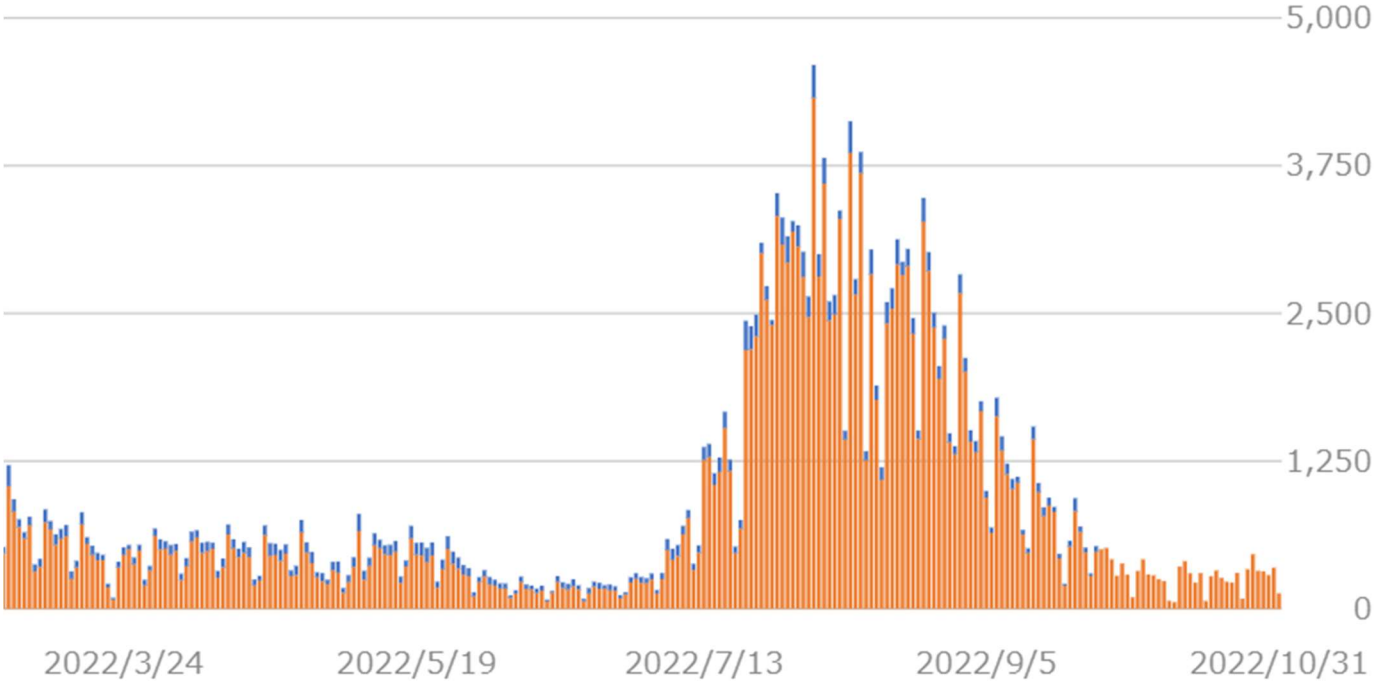
もともと新型コロナは、寒さで換気が不十分になる冬場に流行しやすいと言われており、2020 年と 2021 年の過去２年は、年末から年明けにかけて流行が拡大しました。

専門家からは、「第８波は既に始まっており、第７波に匹敵する大きな波になるおそれがある。」との見方も出ており、インフルエンザとの同時流行も懸念されている第 8 波の到来に備えることが必要です。

当法人の施設では、職員、職員の家族、利用者及び利用者の家族で、ＰＣＲ検査を受けられる事例が先月 10 月は５件（９月：16 件）で、累計で 301 件となりました。

職員の皆さんにおかれましては、引き続き、マスク、手洗い、距離確保、密の回避、こまめで十分な換気など、日々の感染対策、利用者、職員の健康状態の把握など基本的な対策の継続をお願いします。

京都市内の感染者数（日別）



（本部事務局）

令和４年度第２回理事会が開催されました

令和４年度第２回理事会が、理事、監事出席の下、10 月 20 日（木）午後２時から、洛南身体障害者福祉会館において開催されました。

理事会では、理事長及び常務理事の職務執行状況やうずまさ学園及び太秦障害者デイサービスセンターの次期指定管理に向けた進捗状況等について、事務局から報告がなされ、活発な質疑が行われました。

報告事項

１　理事長及び常務理事の職務執行状況報告

２　うずまさ学園及び太秦障害者デイサービスセンターの次期指定管理に向けた進捗状況について

３　京都市所有地（南区吉祥院砂ノ町）の京都市への有効活用提案（グループホーム・居宅介護事業所）について

４　新型コロナウイルス感染症への対応と影響について

５　資産運用計画及び実施状況について

６　令和４年度評議員会等の年間開催予定について

令和４年度第２回評議員事業報告会が開催されました

令和４年度第２回評議員事業報告会が、評議員、理事、監事出席の下、１０月２７日（木）午後２時から、京都テルサにおいて開催されました。

評議員事業報告会では、令和４年度上期の主な業務執行状況やうずまさ学園及び太秦障害者デイサービスセンターの次期指定管理に向けた進捗状況等について、事務局から報告がなされ、活発な質疑が行われました。

報告事項

１　令和４年度上期の主な業務執行状況について

２　うずまさ学園及び太秦障害者デイサービスセンターの次期指定管理に向けた進捗状況について

３　京都市所有地（南区吉祥院砂ノ町）の京都市への有効活用提案（グループホーム・居宅介護事業所）について

４　新型コロナウイルス感染症への対応と影響について

５　資産運用計画及び実施状況について

６　令和４年度評議員会等の年間開催予定について

（本部事務局）

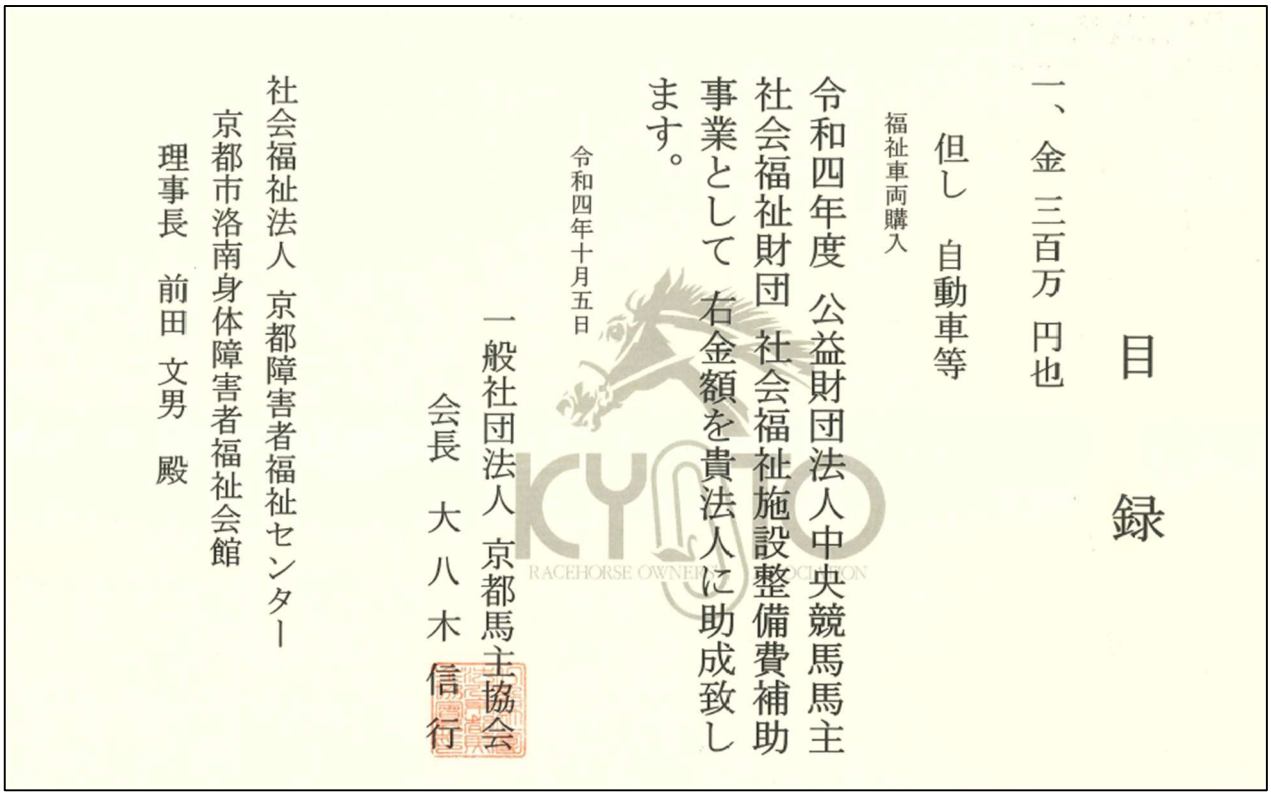
公益財団法人 中央競馬馬主社会福祉財団様から
車両購入の助成金をいただきました

洛南身体障害者福祉会館では、16 年乗り続け老朽化した送迎車両の入替のため、京都府共同募金会の推薦を受けて、公益財団法人中央競馬馬主社会福祉財団の助成金を申請しておりました。

令和４年８月 22 日に交付決定をいただき、１０月５日ホテルグランヴィア京都で開催された目録贈呈式に西田常務理事と小林館長が出席されました。

新しい送迎車は、現在の車両から少し大きくなり、車いすの定員も２名から４名に増え、利用者の皆さんに安心快適に乗車いただけると考えております。
公益財団法人中央競馬馬主社会福祉財団様誠にありがとうございます。
利用者支援に有効に活用させていただきます。

※公益財団法人中央競馬馬主社会福祉財団
中央競馬の馬主が、社会福祉に貢献することを目的として、競馬賞金の一部を自主的に拠出することにより、昭和 44 年 10 月に設立されました。
これまで全国の民間社会福祉施設等に助成金を交付しており、その累計額は、令和３年度までに 29,009 件、1,218 億円余に達しています。
今年度京都府下で助成を受けた団体は 11 団体になります。



目録

一、金 三百万 円也

但し 自動車等
福祉車両購入

令和四年度 公益財団法人中央競馬馬主社会福祉財団 社会福祉施設整備費補助事業として 右金額を貴法人に助成致します。

令和四年十月五日

一般社団法人 京都馬主協会
会長 大八木 信行

社会福祉法人 京都障害者福祉センター
京都市洛南身体障害者福祉会館
理事長 前田 文男 殿

（本部事務局：下井 修司）

洛南エリアTOPICS　【洛南障害者デイサービスあすなろ】

ハロウィンリースを創作！！

10 月 31 日はハロウィンの日！ ということで、10 月に入って季節感を感じていただける創作活動として、ハロウィンリースを作りました。

ハロウィンにちなんだ小物や造花など好きな飾りを選び、配置を考え、グルーガンで接着していきます。工程はさほど難しくないのですが、どの飾りが良いかな、どう組み合わせたら可愛く（格好よく）なるかな、うまくくっつくかな等、思い思いに楽しみながら取り組まれていました。

職員の補助が多く必要な利用者さんも、じっと飾りを見ておられたり、手を添えて一緒に飾りを触って付けてくださったり、普段とは違う雰囲気を感じながらご自身の作品づくりに参加いただけました。

出来上がったリースはそれぞれ個性豊かで、同じものが２つとないオリジナル！ 手に取ると嬉しそうな笑顔が見られ、利用者さんやご家族からも、さっそく玄関や部屋に飾りますとコメントをいただき好評でした。

作る工程を楽しみ、作品を持ち帰る等で達成感が感じられる創作活動は、あすなろでも希望者の多い人気のプログラムの１つとなっています。

（洛南障害者デイサービスセンター「あすなろ」：矢野　響子）

伏見エリアTOPICS 【放課後等デイサービス「らいと」】

放課後等デイサービス分科会について

現在、放課後等デイサービスは事業所数が多く、利潤を追求し、支援の質が低い事業所や適切ではない支援を行う事業所が増えているとの指摘があり、支援内容の適正化と質の向上が強く求められています。

そういった指摘のある中、有志が集まり、京都市南部障害者地域自立支援協議会「児童に関する専門部会」の分科会として放課後等デイサービス分科会を立ち上げました。

分科会では放課後等デイサービス事業所間の連携強化を図り、様々な課題を共有、お互いの提供するサービス内容や取り組みを理解し、自事業所のサービス向上、支援者の質の向上、事業所の健全運営と放課後等デイサービスを利用されるすべての人の生活の質の向上に努めることを目的としています。

放課後等デイサービス「らいと」では分科会の立ち上げから事務局員として参加し、南部障害者地域生活支援センターや放課後等デイサービス支援事業のご協力を得ながら活動を行っています。

分科会では次のような活動を中心に行っています。

（１）障がい児支援施策、障がい福祉サービスに関する情報共有
（２）事業所間での情報共有
（３）放課後等デイサービス事業所の周知や広報活動
（４）京都市南部地域障害者地域自立支援協議会「児童に関する専門部会」を通じた行政機関との連携
（５）その他事業や交流会等の開催

今年度４月から合同の職員研修を始めました。当初は参加施設が少なかったものの回を重ねるごとに参加施設も増え、分科会参加事業所の持ち回りで行われている事業所見学会も活発になってきています。

参加された事業所からは「このような取り組みが必要だった」との声や「同じ悩みを共有出来てよかった」と概ね好評で次の研修内容や取り組みについて提案してくれる事業所もありました。

今後も、放課後等デイサービス事業の現状と課題について、事業所間で共有し、事業全体の底上げを図り、放課後等デイサービスに求められている「子どもの最善の利益の保障」、「共生社会の実現に向けた後方支援」、「保護者支援」の充実が図れるよう活動を続けていきたいと思います。

（放課後等デイサービス「らいと」：茗荷　真）

山科エリアTOPICS　【やましな学園】

プチ秋祭り開催しました

実行委員の開会宣言の声も高らかにスタート！！

　やましな学園Ｂ型事業では 10 月 11 日（火）にプチ秋祭りを開催しました。
　今年度もコロナ禍のため日帰りレクリエーションの実施を断念せざるを得ない状況が続いています。このような状況の中、外出はできなくても「みんなと一緒に楽しみたい」という気持ちに応えるため、皆さんからの希望をお聞きした結果、プチ秋祭りの開催が決定しました。

占いの結果にみんなドキドキ！！

　開催に向けて実行委員に立候補された利用者さんには企画段階から積極的に参加して頂きました。
　秋祭りの内容はストラックアウト、占い、ソフトクリーム、ビンゴ大会というプログラムが組まれました。内容の決定以外にもお知らせプリントの作成・配布や、開会・閉会宣言の原稿の作成も担当され、利用者さん自身の手作りによるイベントとなりました。

　当日は実行委員の利用者さんの力強い開会宣言によりスタート。グループごとに分かれ順番にアトラクションを楽しまれました。
　ストラックアウト、占い、ソフトクリームのどのブースでも笑顔が溢れ、目一杯楽しんでいただけた様子でした。
　最後はハラハラドキドキのビンゴ大会で大いに盛り上がり笑顔がいっぱいの、エンディングを迎える事ができました。
　終了後はそれぞれのビンゴ大会の景品を手にして「占い楽しかった！！」「ソフトクリームおいしかった！！」と感想を述べられ、みんなの手で作り上げたイベントに満足された様子で、早くも次にやってみたい事の希望が挙がっています。

目指せ！！
パーフェクト！！

ソフトクリームコーナー。ここでも実行委員が大活躍！！

　この冬に向けてコロナの第８波も懸念されるなど日帰りレクリエーションの実施は難しい状況が続きますが、安心・安全に楽しめるイベントを皆さんと一緒に企画していきたいと考えています。

（やましな学園 就労継続支援Ｂ型事業：柳澤 康博）

支援センターNEWS　【支援センターらくとう】

『人生には伴走者が必要だ』

前回の支援センターニュースでらくなん大塚主任から情報提供いただいた、北九州で里親をしている土井先生の講演をお聞きし感じたこと、支援で活かせそうなことを法人の皆さまと共有したいと思います。

皆さんは人生の中で支えてくれる人、家族や友人、恋人、ペットはいますか？
意識することは少ないかもしれませんが少なくても一人（もしくは一匹）はいらっしゃるのではないでしょうか。

山下自身は、多くの人に依存させてもらいながら、しないといけない仕事をしています。依存先が全くない中では、私は健康的に過ごせる自信はありません。土井先生のところにくる子どもの多くは依存先である家族から引き離され、見知らぬ大人が親代わりになって一緒にしばらく生活することになります。虐待経験のある子どもは目に見えないトラウマを抱えていて、土井先生はその子どもたちを日々の生活を豊かにすること（＝治療的里親）から、社会に出て行けるように働きかけ、ホームから出ても「いつでも帰ってきていいよ」といつまでも見捨てない姿勢で 24 時間 365 日の支援をされています。

そんな土井先生から私にいただいたメッセージが、『人生には伴走者が必要だ』でした。
障害があってもなくても、見捨てずにいてくれる人がいることで、他者を信じようとすることができ、自信をもって生きていくことができる。そんな他者になってくださいねと、おっしゃっていただきました。

相談員を 9 年ほどしていますが、ほとんどの相談が伴走型で、大きな変化や前進ができない、目標設定ができないという事に頭を抱える事も多かったのですが、土井先生の話を聞き、大きな変化を促せなくても、まずはこちらから見捨てないようにしようと思えました。
今回はニュースではなく、支援者の心構えのような内容となりましたが、日々の支援ではなかなかいただけないメッセージでしたので、ぜひとも皆さまと共有したく記事にさせていただきました。

※ご興味のある方は、土井高徳先生の書籍を検索してみてください。

土井先生のブログです。
https://ameblo.jp/tdoi-01/

（京都市東部障害者地域生活支援センター「らくとう」：山下 笑子）